

平成 23 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	動的・多要素な生体分子ネットワークを理解するための合成生物学の基盤構築
領域代表者	岡本 正宏（九州大学・農学研究院・教授）
研究期間	平成 23 年度～平成 27 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、従来の生物学に工学、情報科学を連携させることにより、生体分子システムの人工的再構築を行うことによって、複雑な生体分子ネットワークを統合的に理解し、利用することを目指したものでこれまでの枠組みを超えた学術的新規性が認められる。領域全体としても目的に向かって連携をすすめるリーダーシップが認められる点や、進化学、発生工学の専門家の補強が行われた点は評価できる。基盤技術として生物学、工学、情報の統合のために、アントシアニン合成など具体性のあるモデルが取り上げられている点は評価できるという意見がある一方、全体としてみるとこのようないくつかの単独研究の集合体にもみえる点が危惧される。本領域研究の個々の成果を幅広く合成生物学の基盤整備へと展開されることを期待する。また研究遂行の過程で生体分子ネットワークを理解するための新たな知見が得られることも期待したい。</p>